鹿児島県総合教育センター

令和２年度長期研修研究報告書

研　究　主　題

外国語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う児童の育成を目指して

ーやり取りを生んだり，続けたりする指導の工夫を通してー

鹿児島市立西陵小学校
教　諭　　外薗さおり

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　研究の構想
　１　研究のねらい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　２　研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　３　研究の計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　研究の実際
　１　児童の実態
　(1)　実態調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　(2)　結果と考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　２　研究主題についての基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　３　研究の視点
　(1)　**【視点１】**主体的に学習に取り組むための工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　(2)　**【視点２】**互いの考えや気持ちを伝え合い，「話すこと［やり取り］」を楽しむための
　　　　　　　工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　４　検証授業Ⅰの実際と考察
　(1)　検証授業Ⅰの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　(2)　検証授業Ⅰにおける視点と手立て・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　(3)　検証授業Ⅰの指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　(4)　検証授業Ⅰの実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　(5)　検証授業Ⅰ後の考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
　５　検証授業Ⅱの実際と考察
　(1)　検証授業Ⅱの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　(2)　検証授業Ⅱにおける視点と手立て・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　(3)　検証授業Ⅱの指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
　(4)　検証授業Ⅱの実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
　(5)　検証授業Ⅱ後の考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

Ⅳ　研究のまとめ
　１　研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
　２　今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

※　引用文献・ＵＲＬ，参考文献

Ⅰ　研究主題設定の理由

生産年齢人口の減少，グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により，社会は大きく，また急速に変化しており，将来を予測することが困難な時代となっている。このような時代にあって，子供たちは，様々な変化に積極的に向き合い，他者と協働した課題解決を通して新たな価値につなげていくことや，複雑な状況変化の中で目的を再構築できるようにすること，生涯にわたる様々な場面で必要となる外国語によるコミュニケーション能力を身に付けていくことが求められている。

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動・外国語編』（以下，小学校学習指導要領）では，外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による言語活動を通して，コミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を育成することが目標として設定されている。文部科学省[*1)]（2016）では，コミュニケーション能力とは，「いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において，相互関係を深め，共感しながら，人間関係やチームワークを形成し，正解のない課題や経験したことのない問題について，対話をして情報を共有し，自ら深く考え，相互に考えを伝え，深め合いつつ，合意形成・課題解決する能力」とあり，本研究においても，この定義を用いる。また，コミュニケーション能力は，話す・聞く・書く・読むといった言語活動のほか，非言語による伝達手段（イメージ，音，身体）も含めた広範な活動に関わるものであり，向上させるためには，言語能力のほか，非言語能力の向上も必要であるとも示されている。これを踏まえ，児童には，非言語的手段も活用させながら，言語で自分の考えや気持ちを的確に伝え合うことができる力を身に付けさせていくことが大切であると考える。

本校では，コミュニケーション能力の中でも，特に，「話すこと［やり取り］」の充実のために，「あい４（あいさつ・表情（すまぁいる）・アイコンタクト・あいづち）」を活用し，指導してきた。伊東[*2)]（2019）は，「『やり取り』は，話し手と聞き手の役割を交互に繰り返す双方向のコミュニケーションで，互いに協力して対話を継続・発展させなければならない。」と述べている。そして，「あい４」を取り組んできた結果，友達と楽しくコミュニケーションを図る児童の姿は見られるようになったが，１回で終わる対話が多く見られ，対話の継続・発展をさせる点において課題が見られた。

その要因として，「あい４」による指導が，非言語的要素を中心とした指導であり，言語能力の向上において不十分であったこと，児童に「互いの考えや気持ちを伝え合いたい。」という思いをもたせる「話すこと［やり取り］」を生む指導や，「話すこと［やり取り］」を続けるための指導が不十分であったことが挙げられる。その結果，対話の内容が深まらないために他者理解や自己理解も深まらず，互いの考えや気持ちを伝え合う楽しさを実感させることができなかったのではないかと考える。

そこで，本研究では，「話すこと［やり取り］」を通して，外国語を用いて児童が互いの考えや気持ちを十分伝え合うことができるような手立てについて研究する。具体的には，児童が「互いの考えや気持ちを伝え合いたい。」という思いをもたせるための場面の設定や動機付けの工夫，Small Talk をはじめとして既習事項を用いた言語活動の機会が増えるような学習指導の工夫について研究する。このことにより，児童の外国語によるコミュニケーションへの関心を一層高めることができ，外国語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う児童を育成できるのではないかと考える。

---

*1)　文部科学省「言語能力について（整理メモ）」 2016 年 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/056/siryo/attach/1366049.htm（2021 年 2 月 26 日閲覧）

*2)　伊東武彦「『やり取り』が求める力とその指導」 2019 年 http://id.nii.ac.jp/1114/00006733（2021 年３月１日閲覧）

Ⅱ　研究の構想

1　研究のねらい

(1)　児童の実態調査を分析し，実態を把握するとともに，指導上の課題を明らかにする。

(2)　児童が互いの考えや気持ちを伝え合いたくなるための手立てについて研究する。

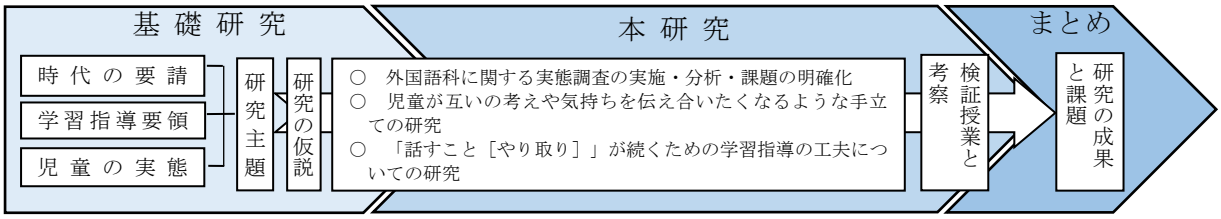
(3)　既習事項を生かしながら，外国語で互いの考えや気持ちを伝え合うための学習指導を研究する。

(4)　検証授業を行い，本研究の成果と課題を明らかにする。

2　研究の仮説

小学校外国語教育において，児童が互いの考えや気持ちを伝え合いたくなるための手立てと，「話すこと［やり取り］」が続くための学習指導の工夫を行えば，既習事項等を活用しながら外国語を用いて互いに自分の考えや気持ちを伝え合う児童の育成につながるのではないか。

3　研究の計画



Ⅲ　研究の実際

1　児童の実態

(1)　実態調査の概要

ア　対　象　鹿児島市立西陵小学校第６学年121人

イ　実施日　令和２年６月５日（金）

ウ　方　法　質問紙法

エ　内　容　外国語を用いた「話すこと[やり取り]」の興味・関心，意識について

(2)　結果と考察

外国語を用いた「話すこと［やり取り］」に関する意識調査において，ほぼ全員の児童が互いの考えや気持ちを伝え合う大切さについて認識しているのに対し，自分の考えや気持ちを伝えるために，何とかして工夫しながら伝えようとしている児童は74%に留まっている（**図１**）。そこで，既得の知識を活用することで，自分の考えや気持ちを伝えることができることを実感させたり，互いの考えや気持ちを伝え合う楽しさを実感させるための指導の工夫を行ったりすることが大切である。

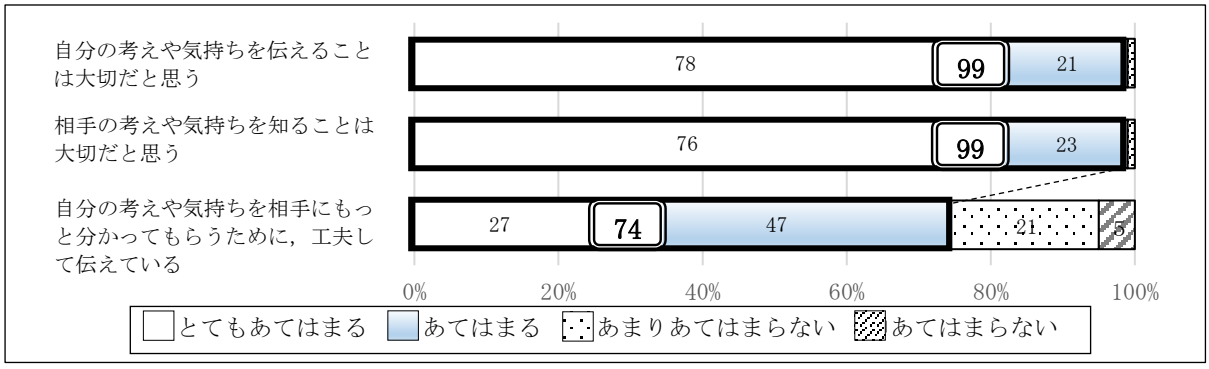


図１　外国語を用いた「話すこと［やり取り］」に関する意識調査

２　研究主題についての基本的な考え方

「互いの考えや気持ちを伝え合う」とは，考えや気持ちを，相手に分かりやすく伝えたり，受容しながら聞いたり，分からないことは質問し合ったりすることである。そのために，「互いの考えや気持ちを伝え合いたい。」という思いをもち，自分が知っている外国語や身振りや表情，ジェスチャーなども交えながら，互いに協力しながら考えや気持ちを伝え合うことができるようにしていく必要がある。

これを踏まえ，本研究では，「互いの考えや気持ちを伝え合う児童」を，自分の考えや気持ちが伝わるように，工夫して伝えたり，受容しながら相手の考えや気持ちを聞いたり，分からないことは尋ね合ったりして，相手と協調的な関係で対話を続け，「話すこと［やり取り］」を楽しむ児童と捉えた。そのような児童を実現するためには，まずは，外国語の授業において，児童に「互いの考えや気持ちを伝え合いたい。」という思いをもたせ，主体的に学習に取り組むことができるようにさせることが大切である。また，外国語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動を充実させることで，「話すこと［やり取り］」の楽しさを実感させ，積極的にコミュニケーションを図ることができるようにさせていくことも大切である。

そこで，児童に，互いの考えや気持ちを伝え合う必然性のある場面の中で，外国語学習の意欲を高めさせ，児童に「自分の考えや気持ちを知ってほしい。」，「相手の考えや気持ちを知りたい。」という思いをもたせることや，外国語をうまく使えない状況にあっても，「話すこと［やり取り］」を続けさせることで，互いの考えや気持ちを伝え合う楽しさを実感させていく。

「話すこと［やり取り］」が続くことで，児童が外国語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う大切さや楽しさを実感し，言語への関心へとつながっていくと考える。

３　研究の視点

研究主題についての基本的な考え方を踏まえて，仮説を検証するための視点を二つ設定する。

【視点１】主体的に学習に取り組むための工夫
【視点２】互いの考えや気持ちを伝え合い，「話すこと［やり取り］」を楽しむための工夫

視点に対する具体的な手立てや工夫については，次のとおりである。

(1)　**【視点１】**主体的に学習に取り組むための工夫

『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』[*3)]では，「やってみたいという気持ちをもって活動に取り組んだり，楽しみながら活動をしたり，自分の本当の気持ちや考えを伝え合いたいという思いをもって活動している時，主体的に学んでいると言える。」とある。そこで，「児童が主体的に学習に取り組む姿」を，「自分の考えや気持ちを知ってほしい。」，「相手の考えや気持ちを知りたい。」などの思いをもって，楽しみながら，学習に取り組む姿と捉えた。

そのために，互いの考えや気持ちを伝え合う必然性のある場面を設定し，目的をもって学習に取り組めるようにしていく。また，児童に「互いの考えや気持ちを伝え合いたい。」という思いをもたせ，楽しんで学習に取り組めるように，学習を動機付けるような指導の工夫も行っていく。

---

*3)　文部科学省『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』 2017 年 https://www.mext.go.jp/a_menu/ kokusai/gaikokugo/1387503.htm（2021 年３月５日閲覧）

ア　伝え合う必然性のある場面の設定

「伝え合う必然性のある場面」とは，感情や情報を伝え合う必要がある場面のことであり，パターンプラクティスのように，定型化された外国語を伝え合うのではなく，伝える相手に，伝えたい内容を考えながら，自ら発話したり，相手の伝えたい内容を受け止めて聞いたりすることができる場面のことである。そのためには，互いの考えや気持ちを伝え合う目的意識や相手意識を設定することが大切である。このことを踏まえ，**表１**のように，「誰に（相手）」，「何のために（目的）」，「どうする（場面・状況）」を明確にする。この３点を明確にすることで，児童は，目的をもち，相手に配慮しながら，「話すこと［やり取り］」を行うことができると考える。

表１　伝え合う必然性のある場面の設定のポイント

- **誰に（相手）**
- **何のために（目的）**
- **どうする（場面・状況）**

イ　学習を動機付けるための指導の工夫

児童が「互いの考えや気持ちを伝え合いたい」という思いをもたせ，楽しんで学習に取り組むことができるようにするために，学習を動機付けるための指導の工夫を行う。動機付けの方略として，「外国語学習者を動機づける10か条」（Dörnyei＆Csizér，1998　廣森*4)，2015）（**表２**）があり，本校の実態を考慮すると，児童の自信を高めることができるようにすること（**表２⑤**）と，児童の自律を促すこと（**表２⑦**）で，児童に自信をもたせ，自ら考えて行動できるようすることが必要であると考える。さらに，デシ＆フラスト*5)（1999）は，内発的動機付けのためには，自律性，有能性に関する心理的欲求を満たすことに加え，関係性に関する心理的欲求も満たすことが大切であると述べている（**表３**）。関係性の欲求を満たし，友達と良好な関係で学習に取り組ませることは，楽しく学習に取り組ませるためにも有効であると考える。以上のことを踏まえ，学習を動機付けるために，児童の意見を取り入れた学習（自律的な学習），児童が自信をもつことができるような機会，友達との触れ合いを大切にした学習が大切であると考え，次の(ｱ)～(ｳ)の，児童が「選択し，自己決定する」，「自信を高める」，「協力する」機会を積極的に設定する。

表２　外国語学習者を動機づける 10 か条
(Dörnyei＆Csizér (1998) 廣森 (2015) より転載)

① 教師自身の行動によって，見本を示すこと
② 教室に，楽しく，リラックスした雰囲気を作り出すこと
③ タスクを適切に提示すること
④ 学習者とより良い人間関係を築くこと
⑤ 学習者の言語に対する自信を高めること
⑥ 授業を学習者の関心を引くようなものにすること
⑦ 学習者の自律を促すこと
⑧ 学習プロセスの個人化を図ること
⑨ 学習者の目標志向性を高めること
⑩ 学習者に目標言語文化に慣れてもらうこと

表３　三つの心理的欲求
（デシ＆フラスト（1999）を基に作成）

自律性	自らの行動に対して，責任をもちたい，自ら選択したいという欲求
有能性	「やればできる」といった期待感や達成感を味わいたいという欲求
関係性	周りの人と「協力的」，「協調的」な関係をもちたいという欲求

*4) 廣森友人『英語学習のメカニズム』　2015 年　大修館書店
*5) エドワード・L・デシ，リチャード・フラスト『人を伸ばす力　内発と自律のすすめ』（桜井茂男監訳）1999 年　新曜社

(ｱ) 児童が「選択し，自己決定する」活動

児童の意見や考えを基に学習計画を作成したり，学習方法やコミュニケーションの手段，自分の考えや気持ちを表現する方法や内容などを，選択したりする機会を設け，児童が「自分たちで，学習を進めている。」感覚がもてるようにしていく。

(ｲ) 児童が「自信を高める」活動

児童が自信を高めることができるようにするために，児童同士の対話による振り返りの機会や自己評価など，振り返りの工夫を通して成長が実感できる機会を設ける。また，「話すこと［やり取り］」の際に，児童の発話に対し褒めるなどの肯定的フィードバックを行い，安心感や励ましを与えることで児童の自信を高めることができるようにしていく。

(ｳ) 児童同士が「協力する」活動

ペアやグループの活動を積極的に活用し，互いを尊重し合いながら，役割を担ったり，互いの考えや気持ちを自由に伝え合ったりする活動を設定していく。そのために，ペアによるSmall Talkやグループによるゲームを行い，児童同士が良好な関係を築き，楽しんで学習に取り組むことができるようにしていく。

(2) **【視点２】**互いの考えや気持ちを伝え合い，「話すこと［やり取り］」を楽しむための工夫

児童が「話すこと［やり取り］」を続けることで，互いの考えや気持ちを伝え合い，「話すこと［やり取り］」を楽しむことができるようにするための以下のア，イの工夫を行う。

ア 「あしかくん」の活用

「話すこと［やり取り］」を続けるためのポイントを整理し，指導を行うことで，互いの考えや気持ちを伝え合うことができるようにしていく。『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』では，対話を続ける基本的な表現例が示されており，対話を続けるためのポイントを**図２**のようにまとめた。**図２**によると，対話を続けるためには，「質問」，「感想」，「繰り返し」が大切である。さらに，相手の思いを受容しながら聞いていることを示したり，外国語で伝えられない自分の考えや気持ちを表現したりするためには，リアクションやうなずきなど，動作（アクション）を交えて「話すこと［やり取り］」をすることも重要である。これらのことを踏まえ，「話すこと［やり取り］」を続けるポイントとして，「やり取り名人『あしかくん』」（**図３**）を提示し，活用を図っていく。

① 対話の開始（あいさつ）
② 繰り返し
③ 一言感想
④ 確かめ
⑤ さらに質問
⑥ 対話の終了（あいさつ）

図２ 対話を続けるためのポイント
（「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」を基に作成）

やり取り名人あしかくんのやり取りポイント

あくしょん（アクション）
リアクション・うなずき
しつもん
かんそう
くんりかえし

図３ 「話すこと［やり取り］」のポイント

日常的に「あしかくん」を活用させるために，Small Talkにおいて，「あしかくん」を積極的に活用させていく。そして，「あしかくん」の活用状況を記録させることにより，「話すこと［やり取り］」における自身の課題を見付けさせることができるようにしていく。また，単元の学習においても「あしかくん」の活用を図り，「あしかくん」のよさについて考える機会

を設ける。「あしかくん」の意義を理解させ，活用を図ることで，互いの考えや気持ちを伝え合う楽しさを実感させることができるようにしていく。

イ　方略的能力を身に付けるための指導

小学校段階で，児童が知っている外国語の語彙数は少なく，外国語で伝えられる内容は限られている。しかし，「話すこと［やり取り］」を続け，自分の考えや気持ちを伝えるためには，限られた語彙や表現の中でも工夫しながら，何とかして，自分の考えや気持ちを伝えようとすることが大切である。そこで，玉井[*6)]（2010）の考えを基に作成したコミュニケーション能力の構成要素（**表４**）の中で，下線部の方略的能力を身に付ける必要がある。コミュニケーションにおいて，自身の言語が不十分な際によく使用される方略は，ドルニェイ[*7)]（2005）の考えを基に作成した**表５**のようなものがある。この中でも，互いの考えや気持ちを伝え合い，「話すこと［やり取り］」を充実させるためには，具体例や非言語的な手段を用いて伝える「達成/補償ストラテジー」や，相手から伝えられた内容について確認したり，分からないことを意思表示したりする「相互作用的ストラテジー」を身に付けることが大切であると考える。

表４　コミュニケーション能力の構成要素
（アレン玉井光江（2010）を基に作成）

文法知識・能力 語彙，文型，文法，音声，文字などのいわゆる言語に関する知識とそれを運用できる能力
社会文化的能力 ある言語が話されている社会の社会・文化的規範にしたがって，その言語を適切に使用できる能力
談話的能力 文と文を適切に結び付けて，文章や一連の発話をまとまりのあるものとして理解し，構成できる能力
方略的能力 自身の言語技能の不完全さを補うために，言い換えやジェスチャーなどのコミュニケーション・ストラテジーを効果的に使用してコミュニケーションを続ける能力

表５　コミュニケーション・ストラテジー
（ドルニェイ（2005）を基に作成）

回避/縮小ストラテジー 話題を変える，メッセージを不完全なままにしておく
達成/補償ストラテジー 具体例を示す，似たものに例える，非言語的手段を使用して説明する
引き延ばし/時間かせぎストラテジー つなぎ言葉を用いる，繰り返す
相互作用的ストラテジー 繰り返す，分からないことをジェスチャーや言葉などで伝える，確認する

児童が方略的能力を身に付けるための指導として，授業の始めに行うウォーミングアップの活動で，「達成/補償ストラテジー」を活用したゲームを実施する。具体例や似たもので伝えるなど，既得の知識を活用することにより，何とかして伝えようとする経験をさせることで，自分の考えや気持ちを伝えるための工夫ができるようにしていく。

---

*6) アラン玉井光江『小学校英語の教育法－理論と実践』　2010 年　大修館書店

*7) ゾルタン・ドルニェイ『動機づけを高める英語の指導ストラテジー35』（米山朝二/関　昭典訳）2005 年　大修館書店

４　検証授業Ｉの実際と考察

(1)　検証授業Ｉの概要

・　単 元 名　　Let’s go to Italy.（New Horizon Elementary２　Unit３）
・　実施学年　　鹿児島市立西陵小学校第６学年　児童121人
・　実施時期　　令和２年６月16日（火），23日（火），24日（水），７月３日（金），７日（火）
・　単元目標
(1) おすすめの国を英語で紹介するための基本的な技能を身に付けている。　（知識及び技能）
(2) 友達に「行きたい。」と思ってもらえるようにするために，既習事項を用いて，おすすめの国を紹介し，友達とおすすめの国についての互いの考えや気持ちを伝え合うことができる。（思考力，判断力，表現力等）
(3) 友達に「行きたい。」と思ってもらえるようにするために，既習事項を用いて，おすすめの国を紹介し，友達とおすすめの国についての互いの考えや気持ちを伝え合おうとしている。（学びに向かう力，人間性等）

(2)　検証授業Ｉにおける視点（p.３～６参照）と手立て

【視点１】主体的に学習に取り組むための工夫

視　点　に　対　す　る　手　立　て	
ア　伝え合う必然性のある場面の設定	おすすめの国を紹介する必然性を高めるために，旅行代理店の店員さんになるようにさせる。そして，相手意識と目的意識を明確にした，「話すこと［やり取り］」を行わせていく。
イ　学習を動機付けるための指導の工夫	(ｱ)　児童が「選択し，自己決定する」活動 場面設定を基に，児童に学習したいことについて尋ね，それを基に学習計画を作成させる。また，おすすめの国を紹介する手段や方法など，選択の機会を増やし，児童の意思決定を大切にした学習になるようにしていく。
	(ｲ)　児童が「自信を高める」活動 児童同士が互いのよかった点などを伝え合う機会を設けるようにしていく。また，振り返りシートにおいて，前時と比べてできるようになったことを振り返らせ，自身の成長を自覚できるようにさせていく。
	(ｳ)　児童同士が「協力する」活動 単元目標であるおすすめの国紹介はペアで行わせ，児童が役割を担いながら，協力して行えるようにしていく。また，グループ内で会社名や，共通の目標を考えさせることで，グループの集団結束力が高まるようにしていく。

【視点２】互いの考えや気持ちを伝え合い，「話すこと［やり取り］」を楽しむための工夫

視　点　に　対　す　る　手　立　て	
ア　「あしかくん」の活用	Small Talkにおいて，「話すこと［やり取り］」についての，友達の情報の記入や，「あしかくん」の使用回数を記録させることで，友達について理解が深まったことを実感させるとともに，「あしかくん」の活用を可視化させることで，「話すこと［やり取り］における自身の課題や成長を自覚できるようにしていく。また，おすすめの国の紹介において，「あしかくん」を活用することで，相手と互いの考えや気持ちを伝え合うことができ，おすすめの国の紹介がより充実していくことを実感させていく。
イ　方略的能力を身に付けるための指導	ウォーミングアップの活動において，コミュニケーションにおける方略を活用したクイズをグループで行わせる。各グループでクイズを行わせた後，外国語で何とかして伝えようとするときの工夫についてポイントを整理し，活用を図ることができるようにしていく。

(3)　検証授業Ⅰの指導計画

時	学習課題と主な学習活動	検証の視点に関する活動の工夫
第1時	旅行代理店の店員さんになって，お客さんに「行きたい。」と思ってもらえるように，おすすめの国を魅力いっぱいに紹介しよう。 ・　単元目標を確認する。 お客さんが行きたくなるようなおすすめの国を紹介するための計画を立てよう。 ・　単元目標達成のために，単元計画を考える。 ・　本単元の個人目標を立てる。 ・　学習を振り返る。	□　児童が主体的にコミュニケーションを図ることができるようにするために，「英語でおすすめの国を紹介する」ための相手・目的・場面・状況を設定する。〈視点１－ア〉 □　児童の自己決定の下，児童が知りたいことや，やりたいことなどを考えさせ，単元計画を立てる。〈視点１－イ(ｱ)〉 □　今後の学習につなげるために，本単元における個人目標やできるようになりたいことを振り返りシートに記入させる。〈視点１－イ(ｲ)〉
第2時	おすすめの国を紹介するために，どんなことを伝えたらよいだろう。 ・　方略的能力を身に付けるための言い換えゲームをする。 ・　おすすめの国を紹介するための表現について知る。 ・　国紹介に関するゲームを行う。 ・　学習を振り返る。	□　「話すこと［やり取り］」を充実させるために，方略的能力を活用した活動を設定する。〈視点２－イ〉 □　ペアによる活動やインタビューゲームを行わせる。〈視点１－イ(ｳ)〉 □　「できるようになったこと」について振り返らせる。〈視点１－イ(ｲ)〉
第3時	お客さんが行きたくなるようなおすすめの国の旅行プランを立てよう。 ・　Small Talkをする。 ・　友達の好きなものや欲しいもの，行きたい場所などを既習事項を用いながらインタビューする。 ・　インタビューを参考に旅行プランを立てる。 ・　学習を振り返る。	□　対話を続けることができるようにするために，「あしかくん」を意識したSmall Talkを行わせる。〈視点２－ア〉 □　相手に配慮したおすすめの国の紹介になるように，友達の好きなことなどを尋ねさせ，それを参考におすすめの国の紹介の内容を考えさせる。〈視点１－ア〉
第4時	お客さんが行きたくなるようにするために，どのように紹介したらよいだろう。 ・　繰り返し表現を用いながら，Small Talk をする。 ・　「話すこと［やり取り］」を大切にするために，「あしかくん」を取り入れたおすすめの国の紹介になるよう，工夫する。 ・　学習を振り返る。	□　「話すこと［やり取り］」の中で繰り返すことの効果について考えさせるために，「繰り返し」を意識しながらSmall Talkを行わせる。〈視点２－ア〉 □　前回と同じ内容で相手を変えてSmall Talkを行い，前回に比べてできるようになったことについて振り返らせる。〈視点１－イ(ｲ)〉 □　対話による振り返りを行わせ，グループ内で互いにおすすめの国を紹介し合い，よかった点や改善点を伝え合わせる。〈視点１－イ(ｲ)〉 □　「話すこと［やり取り］」を充実させるために，「旅行会社の店員」という立場でおすすめの国を紹介をするには，どういう工夫をしたらよいか考えさせ，「あしかくん」の活用が図られるようにする。〈視点２－ア〉
第5時	お客さんが行きたくなるように工夫しながら，おすすめの国を紹介しよう。 ・　「あしかくん」を意識しながら，接客し，おすすめの国を紹介する。 ・　参考にしたいグループを紹介し，よいところを考え，おすすめの国の紹介に生かす。 ・　単元を通して，できるようになったことや，この学習を生かして挑戦したいことなどを振り返る。	□　「話すこと［やり取り］」の楽しさを実感できるようにするために，「あしかくん」の活用を通して，互いの考えや気持ちを伝え合うようにさせる。〈視点２－ア〉 □　グッドモデルを示し，よかった点や参考にしたい点を共有し，自分の「話すこと［やり取り］」に生かせるようにする。〈視点２－ア〉 □　学習の達成感を味わうことができるようにするために，単元全体を通して「できるようになったこと」を振り返らせる。〈視点１－ア(ｲ)〉

(4)　検証授業Ⅰの実際

ア　伝え合う必然性のある場面の設定【視点１－ア】

おすすめの国を紹介する必然性を高めるために，**図４**のように，旅行会社の店員という身近で具体的な場面設定を行った。

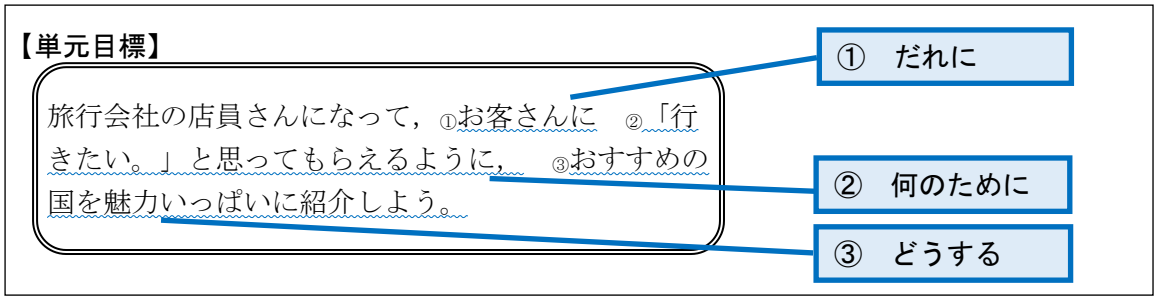


図４　おすすめの国を伝え合う必然性のある場面設定

イ　学習を動機付けるための指導の工夫【視点１－イ】

(ｱ) 児童が「選択し，自己決定する」活動【視点１－イ(ｱ)】

単元目標達成のために，**図５**のように，児童に知りたいことややりたいことを考えさせ，児童の自己決定を中心とした単元計画の作成を行った。

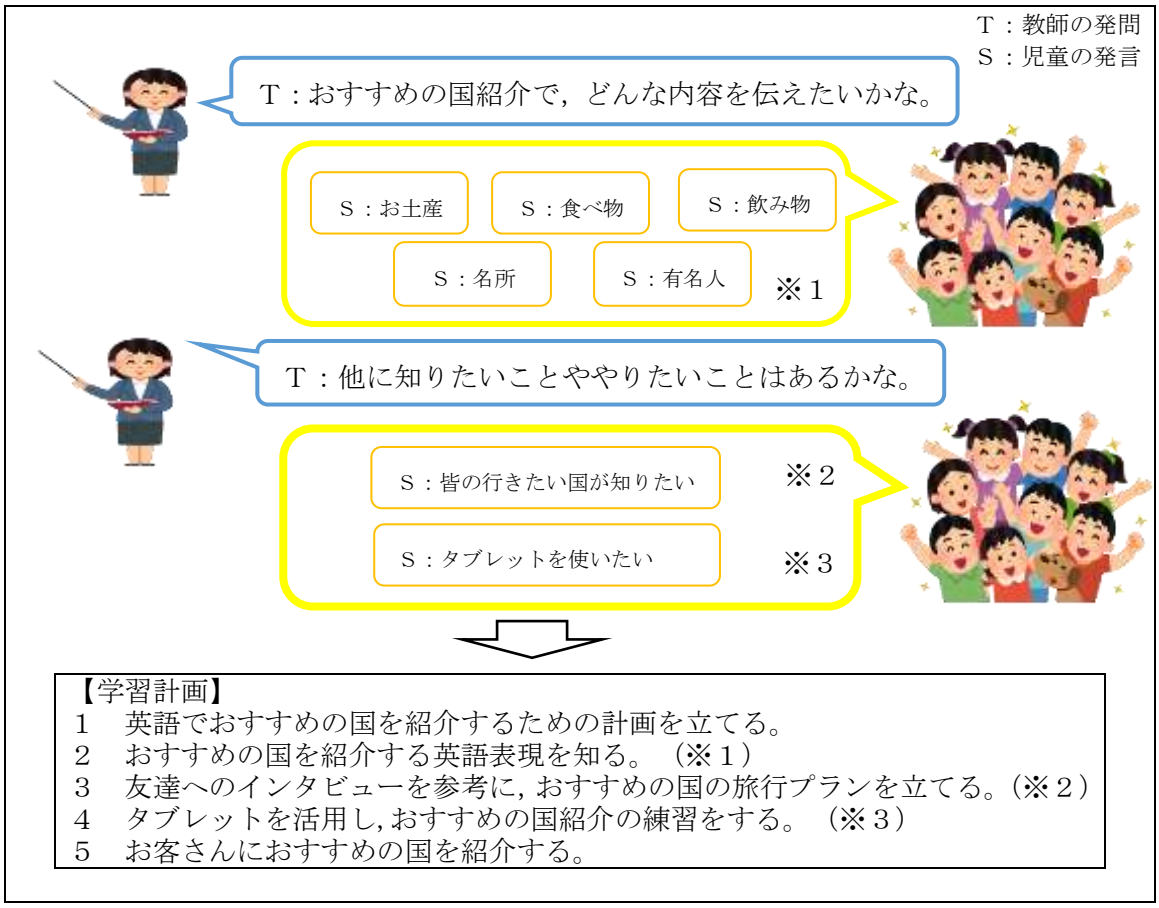


図５　児童の自己決定に基づく学習計画を作成している場面

(ｲ) 児童が「自信を高める」活動【視点１－イ(ｲ)】

ａ　授業終末の振り返りシートによる自己評価

図６のように，「分かったこと」や「前回よりできるようになったこと」を，振り返りによる視点として示し，児童が学習による成長を実感できる機会を設けた。

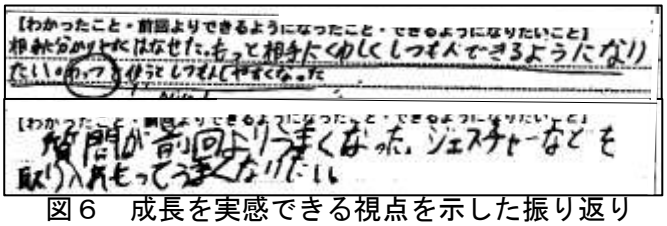


図６　成長を実感できる視点を示した振り返り

b　単元末の自己評価の機会の設定

単元の始めに，コミュニケーションにおける態度面や，言語に関する事項など，具体的な内容で，個人目標を設定させた。そして，単元終末に，単元を通してできるようになったことを振り返る機会を設け（**図７**），児童が成長を自覚し，学習による自信が高まるようにした。

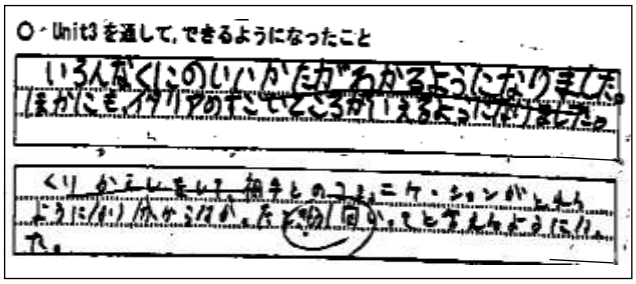


図７　単元末の児童の振り返り

c　頑張って学習に取り組んだ友達について振り返る機会の設定

「話すこと[やり取り]」の学習活動がある際には，「今日のガンバリスト」として頑張った友達について振り返る機会を設け（**図８**），友達から評価されたことを自信につなげるような指導の工夫を行った。

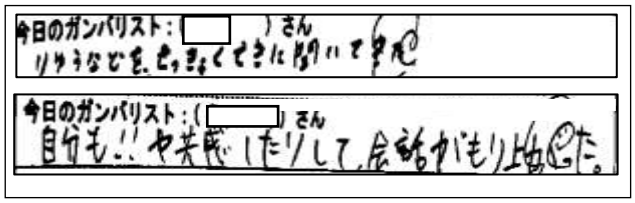


図８　友達のよかったところについての振り返り

(ｳ) 児童同士が「協力する」活動**【視点１－イ(ｳ)】**

a　グループの結束を高めるための工夫

「旅行会社の店員さん」という場面の下，各グループを旅行会社に見立て，**図９**のように，会社名やロゴ，共通の目標を考えさせ，グループの結束が高まる工夫を行った。

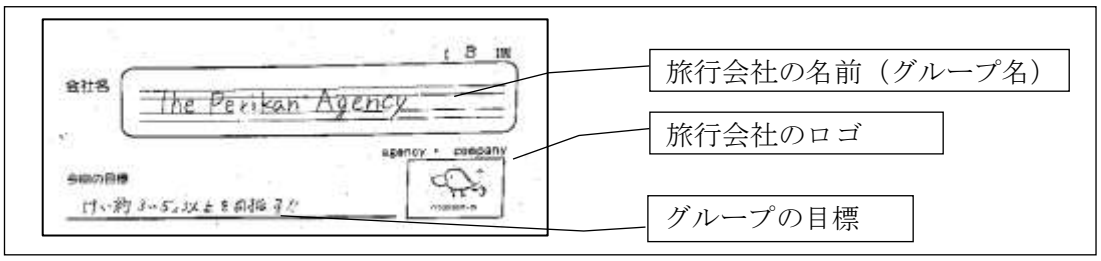


図９　「協力する」活動を目指したグループの結束を高めるための工夫

b　ペアやグループの積極的な活用

ペアによる Small Talk や，グループでのゲーム，対話による振り返りの機会など，友達と対話する機会を積極的に増やした。その際，外国語を苦手に感じている児童や外国語でどのように伝えたらよいか分からない児童がいた場合は，児童同士で外国語の表現や，伝え方の工夫について一緒に考える機会を設けて，外国語に関して苦手意識を感じている児童の不安軽減を図った。

ウ　「あしかくん」の活用**【視点２－ア】**

(ｱ) Small Talkでの「あしかくん」の活用

Small Talkで，「あしかくん」を積極的な活用を図った。そして，Small talkの後に，「あしかくん」をどれくらい活用したかを振り返る機会を設け（**図10**），「話すこと［やり取り］」における自身の課題を把握できるようにさせた。

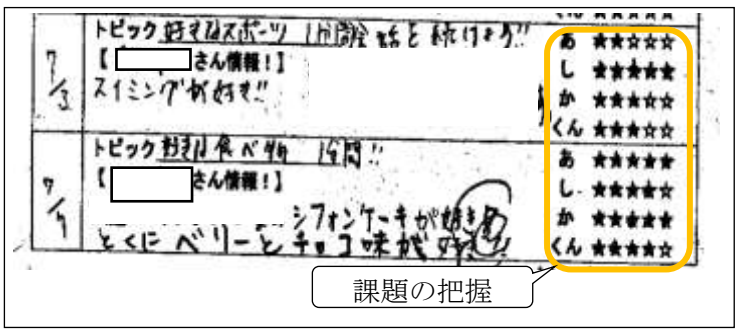


図 10　Small Talk における「あしかくん」活用状況の記録

(ｲ) おすすめの国紹介での「あしかくん」の活用

おすすめの国について，一方的に事実のみを伝えた紹介ではなく，自分の考えや気持ちを伝えたり，聞く側の気持ちを理解しながら紹介したりできるようにするために，**図11**のように，「あしかくん」の活用を図り，コミュニケーションが充実するようにした。

Australia is a nice country.
You can see koala.
It's cute. ･･･あしかくん
You can buy eucalyptus honey.
It's sweet.･･･あしかくん
Do you like honey? ･･･あしかくん
Let's try! ･･･あしかくん
あ：アクション　し：質問　か：感想　くん：繰り返し

図 11　「あしかくん」を活用したオーストラリアの紹介

(ｳ) グッドモデルの提示

おすすめの国の紹介において，「あしかくん」を活用したグッドモデルを**図12**のように提示し，よい点などを全体で共有し，自身の「話すこと[やり取り]」に生かせるようにした。

Brazil is a nice country.　・・・あしかくん
You can see soccer.
Do you like soccer?　・・・あしかくん
It's exciting.　・・・あしかくん
You can eat *churrasco*.
Do you know *churrasco*?　・・・あしかくん
Japanese *yakitori*!　・・・似たものへの例え
It's delicious.　・・・あしかくん
Let's go to Brazil!　・・・あしかくん
あ：アクション　し：質問　か：感想　くん：繰り返し

- ジェスチャーもあって，思いが伝わりやすい。
- アイコンタクトがあった。
- 伝えたいところは繰り返していた。
- 「あしかくん」をいっぱい使っていた。
- 発表者が質問してくれたので，積極的に楽しく聞けた。
- 英語で分からないところは，例えていて分かりやすかった。

図 12　グッドモデルを提示し，よかった点について全員で共有している場面

エ　方略的能力を身に付けるための指導**【視点２－イ】**

言い換えゲームの児童の発言や，コミュニケーションにおける方略を基に，**図13**のように言い換えのポイントを整理し，活用を図ることができるようにした。

「歯医者」児童の言い換え例
※非言語的手段を使用して説明する
・（歯を指しながら）clean/ doctor
※似たものに例える

「冷蔵庫」児童の言い換え例
・You can see vegetable, egg, milk, ice.
・It's cool.
※具体例を挙げる

〈言い換えのポイント〉
- カテゴリーを言う。（動物，果物，野菜など）
- 特徴を言う。（児童が今まで学習してきた内容を活用して）
- 具体例を挙げる。
- 似たものに例える。
- ジェスチャーで表す。

図 13　方略的能力を実際に活用し，ポイントについてまとめている場面

(5)　検証授業Ⅰ後の考察

ア　検証授業Ⅰ後の調査結果（令和２年７月17日（金）実施　本校第６学年121人対象, 質問紙）

表６より，「外国語を用いて自分の考えや気持ちを伝えよう。」とする意識の高まりが見られるようになった（**表６**③，④）。また，**図14**より，事前の実態調査と比較して，自分の考えや気持ちを工夫して伝えようとする児童も増えた。

表６　外国語で「話すこと［やり取り］」を行うときに大切にしていること

項　　目	検証授業前	検証授業後
①　表　　情	58%	62%
②　アイコンタクト	57%	49%
③　自分の考えや気持ちを伝える	35%	52%
④　相手の考えや気持ちを聞く	28%	32%

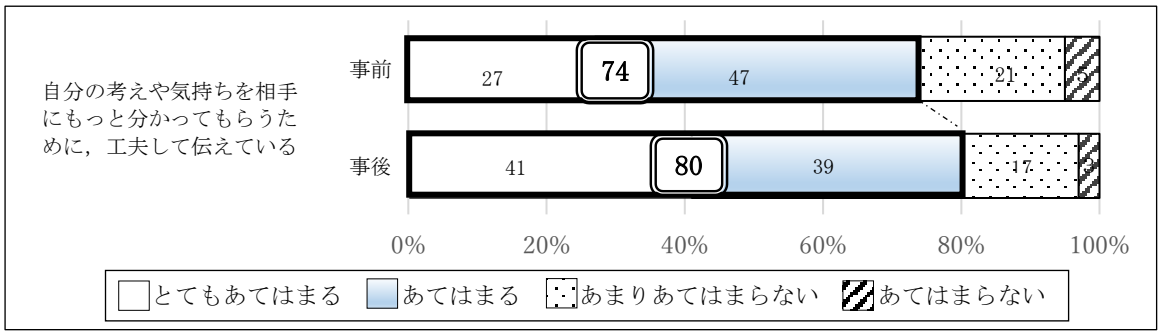


図14　外国語を用いた「話すこと［やり取り］」に関する意識調査

イ　検証授業Ⅰにおける成果と課題

(ｱ)**【視点１】**主体的に学習に取り組むための工夫

児童にとって身近な場面設定をしたことで，単元のゴールの姿をイメージしやすく，見通しをもって学習に取り組めたとともに，学習を動機付けるために，単元のゴールをペアで取り組ませたことで，楽しそうに学習に取り組む姿が見られた。

しかし，児童の様子を見てみると，カタカナ原稿を読んで，おすすめの国を紹介している児童が多くいた。カタカナ原稿を読んでいたのは，児童がおすすめの国を英語で紹介することに自信をもつことができないまま，単元のゴールを迎えさせてしまったことが要因として考えられる。

そこで，検証授業Ⅱにおいては，児童が自信をもって単元のゴールを迎えることができるように，発話の機会を増やしたり，学び合いの充実を図ったりし，児童が英語で原稿を見ずに，自信をもって自分の考えや気持ちを，伝えることができるようにしていく。

(ｲ)**【視点２】**互いの考えや気持ちを伝え合い，「話すこと［やり取り］」を楽しむための工夫

「あしかくん」の活用で，「話すこと［やり取り］」の際に，事実のみを伝え合うのではなく，互いの考えや気持ちを伝え合うようになり，友達との相互理解が深まったことを自覚し，「話すこと［やり取り］」の楽しさや大切さを実感させることができた。また，「あしかくん」や，方略的能力を活用させることで，外国語の語彙力が十分でなくても，既得の知識を活用することで，自分の考えや気持ちを何とか伝えることができることを実感し，工夫しながら自分の考えや気持ちを伝えようとする姿が見られた。検証授業Ⅱにおいても，「あしかくん」や方略的能力を活用し，互いの考えや気持ちが伝え合うことができるようにする。そして，より自分の考えや気持ちが伝わるようにするための工夫について考えさせていく。

検証授業Ⅱにおいては，「話すこと［やり取り］」が活発になるように，児童が積極的に質問できるような活動設定の工夫をしていく。また，動画を活用し，自分を客観的に評価できる機会を設け，自身の「話すこと［やり取り］」における課題を適切に把握できるようにさせ，自分の考えや気持ちを伝えるための工夫について考えることができるようにしていく。

５　検証授業Ⅱの実際と考察

(1)　検証授業Ⅱの概要

・　単 元 名　　Let’s think about our food.（New Horizon Elementary２　Unit３）
・　実施学年　　鹿児島市立西陵小学校第６学年　児童121人
・　実施時期　　令和２年11月９日（月），11日（水），16日（月），20日（金），12月１日（火）
・　単元目標
(1)　料理を英語で紹介するための基本的な技能を身に付けている。　　（知識及び技能）
(2)　友達やＡＬＴに，考案したオリジナル料理を選んでもらえるようにするために，オリジナル料理の魅力について，既習事項を用いて，考えや気持ちを伝え合うことができる。
（思考力，判断力，表現力等）
(3)　友達やＡＬＴに，考案したオリジナル料理を選んでもらえるようにするために，オリジナル料理の魅力について，既習事項を用いて，考えや気持ちを伝え合おうとしている。
（学びに向かう力，人間性等）

(2)　検証授業Ⅱにおける視点（ｐ．３～６参照）と手立て

【視点１】主体的に学習に取り組むための工夫

視　点　に　対　す　る　手　立　て	
ア　伝え合う必然性のある場面の設定	他教科等の学習や，外国語学習における既習事項を生かせるようにするために，食べ物屋さんでの買い物の場面にする。また，ＡＬＴを「話すこと［やり取り］」の相手とすることで，外国語で伝える必然性をより高めていく。
イ　学習を動機付けるための指導の工夫	(ｱ)　児童が「選択し，自己決定する」活動 学習計画の作成や，食べ物屋さんのメニュー，英語表現，買うものなど，児童の自己決定の機会を増やしていく。
	(ｲ)　児童が「自信を高める」活動 児童同士が褒め合う機会など積極的な肯定的フィードバックの機会を増やす。また，振り返りの際は，「できるようになったこと」だけでなく，「頑張ったこと」など努力面にも目を向けさせ，児童が学習に対し，自信をもつことができる視点を増やす。
	(ｳ)　児童同士が「協力する」活動 ペアやグループを活用したゲームを検証授業Ⅰに引き続き積極的に取り入れていくとともに，学び合いにより，自身の考えを広げたり深めたりできる機会の充実を図っていく。

【視点２】互いの考えや気持ちを伝え合い，「話すこと［やり取り］」を楽しむための工夫

視　点　に　対　す　る　手　立　て	
ア　「あしかくん」の活用	Small Talkにおいて，「話すこと［やり取り］」の内容について意識させ，充実するための内容はどんな内容か考えさせる。また，「あしかくん」の指導をより一層充実させるために，質問の機会が増えるような活動を設定していく。さらに，自身が考案したオリジナル料理について紹介する動画の撮影を通して，紹介における自身の課題を把握できるようにさせていく。
イ　方略的能力を身に付けるための指導	Teacher’s Talkにおいても，方略的能力が必要な内容を積極的に取り入れ，児童が方略的能力を日常的に活用する機会を増やしていく。

(3)　検証授業Ⅱの指導計画

時	学習課題と主な学習活動	検証の視点に関する活動の工夫
第1時	食べ物屋さんになって，友達やＡＬＴに買ってもらえるように，魅力いっぱいにオリジナル料理を紹介しよう。 ・　単元目標を確認する。 友達やＡＬＴに魅力が伝わるオリジナル料理紹介にするための計画を立てよう。 ・　単元目標達成のために，単元計画を考える。 ・　本単元の個人目標を立てる。 ・　学習を振り返る。	□　児童が主体的にコミュニケーションを図ることができるようにするために，「考案したオリジナル料理を紹介する」ための相手・目的・場面・状況を設定する。 〈視点１－ア〉 □　単元目標達成のために学びたいことなどについて話し合わせ，単元計画を立てる。　〈視点１－イ(ｱ)〉 □　個人目標を立てさせることで，主体的に学習に取り組むことができるようにしていく。　〈視点１－イ(ｲ)〉
第2時	みんなが食べたくなるようなオリジナル料理を考えよう。 ・　朝食に関するSmall Talkをする。 ・　オリジナル料理を考え，食材の産地や値段など紹介に必要な情報を調べる。 ・　オリジナル料理のメニュー名を考え，メニューを紹介する動画を撮影する。 ・　学習を振り返る。	□　「クラスの朝食調査をする。」という目的を明確にしてSmall Talkを行わせる。　〈視点１－イ(ｳ)〉〈視点２－ア〉 □　オリジナル料理を考えさせる。　〈視点１－イ(ｱ)〉 □　児童に学習による成長を実感させるために，学習した言語材料を活用したオリジナル料理を紹介する動画を撮影させ，活用させる。　〈視点１－イ(ｲ)〉 □　自己の変容を自覚させるために，できるようになったことや頑張ったことを振り返らせ，次時の学習意欲を喚起させる。　〈視点１－イ(ｲ)〉
第3時	オリジナル料理の味や産地について英語で紹介しよう。 ・　方略的能力を高めるために，英語の言い換えゲームをする。 ・　産地や味など聞き取った情報を基に，世界の食べ物事典を作る。 ・　考案したオリジナル料理の産地や味について紹介し，動画を撮影する。 ・　学習を振り返る。	□　「話すこと［やり取り］」を充実させるために，言い換えゲームを実施し，児童の方略的能力が高まるようにしていく。　〈視点１－イ(ｳ)〉〈視点２－イ〉 □　「食べ物事典を作る」という目的をもたせ，産地や味を伝える表現に慣れ親しませる。　〈視点１－イ(ｳ)〉 □　言い換えや「あしかくん」を活用させながら，産地や味の情報について伝え合うことができるようにさせる。 〈視点１－イ(ｳ)〉〈視点２－ア〉
第4時	オリジナル料理の栄養や値段について英語で紹介しよう。 ・　誕生日で食べるものについて Small Talk をする。 ・　友達とオリジナル料理を紹介し合う。 ・　考案したオリジナル料理の栄養や値段について紹介し，動画を撮影する。 ・　学習を振り返る。	□　「あしかくん」を活用させながら，誕生日に食べるものについてSmall Talkをさせる。 〈視点１－イ(ｳ)〉〈視点２－ア〉 □　グループの友達にオリジナル料理を紹介させ，よかった点や改善点などを伝え合わせる。 〈視点１－イ(ｳ)〉〈視点２－ア〉 □　学習した栄養や値段の英語表現を活用させながら，オリジナル料理を紹介させ，動画撮影を通して，自分の紹介について振り返らせる。　〈視点１－イ(ｲ)〉
第5時	みんなが食べたくなるようなオリジナル料理紹介にするための工夫を考えよう。 ・　オリジナル料理を紹介する内容を決める。 ・　友達と互いに紹介し合い，よい点や改善点などを伝え合う。 ・　グッドモデルを全員で共有し，自分の「話すこと［やり取り］」に生かす。 ・　学習を振り返る。	□　双方が質問し合うことにより，「話すこと［やり取り］」が一層充実するように，オリジナル料理の紹介内容を三つに絞らせる。　〈視点２－ア〉 □　グループで互いにオリジナル料理を紹介させ，改善点について意見を伝え合わせる。 〈視点１－イ(ｳ)〉〈視点２－ア〉 □　グッドモデルを参考に，相手を代えてオリジナル料理を紹介させ，次時の学習の見通しをもたせる。 □　振り返りの際，相互評価を行わせ，自信へとつなげる。 〈視点１－イ(ｲ)〉
第6時	友達に，考えたオリジナル料理の魅力を伝えよう。 ・　Thanks Giving Day について Small Talk をする。 ・　グッドモデルを全員で共有し，自分の「話すこと［やり取り］」に生かす。 ・　グッドモデルを生かし，再度挑戦する。 ・　学習を振り返る。	□　既習事項の活用や児童の異文化理解を深めさせるために，Thanks Giving Dayを紹介し，感謝したい人についてSmall Talkをさせ，互いの考えや気持ちを伝え合うことができるようにさせる。　〈視点１－イ(ｳ)〉〈視点２－ア〉 □　グッドモデルを提示し，コミュニケーションにおけるよかった点や，参考になる英語表現などを共有し，より言語面が充実させていく。　〈視点２－ア〉
第7時	ＡＬＴに，考えたオリジナル料理の魅力を伝えよう。 ・　前時の反省を本時で生かしながら「話すこと［やり取り］」を行う。 ・　本時の学習を振り返る。 ・　単元を通して，できるようになったことや今後に生かしたいことについて考える。	□　ＡＬＴに紹介させることで，外国語を使う必然性を高めるとともに，方略的能力を活用させて，自分の考えが伝わるように工夫しながら伝えるようにさせる。 〈視点１－ア〉　〈視点２－イ〉 □　「自分の考えや気持ちが伝わった。」という自信がもてるようにするために，ＡＬＴから肯定的なフィードバックを多くもらえるようにしていく。 〈視点１－イ(ｲ)〉 □　単元全体を振り返らせ，単元を通した成長を実感することができるようにさせていく。　〈視点１－イ(ｲ)〉

(4) 検証授業Ⅱの実際

ア　伝え合う必然性のある場面の設定【視点１－ア】

外国語で伝え合う必然性を高めるために，伝える相手をＡＬＴにするとともに，他教科等との関連や，既習事項の活用を意識し，**図15**のような場面設定を行った。

図15　食べ物を紹介する必然性のある場面設定

イ　学習を動機付けるための指導の工夫【視点１－イ】

(ｱ) 児童が「選択し，自己決定する」活動【視点１－イ(ｱ)】

単元目標達成のために，知りたいことや，やりたいことを考えさせ，児童の自己決定を中心とした単元計画の作成を行った。また，**図17**のように，検証授業Ⅱにおいては，検証授業Ⅰよりも児童が選択したり自己決定したりできる機会を増やした。

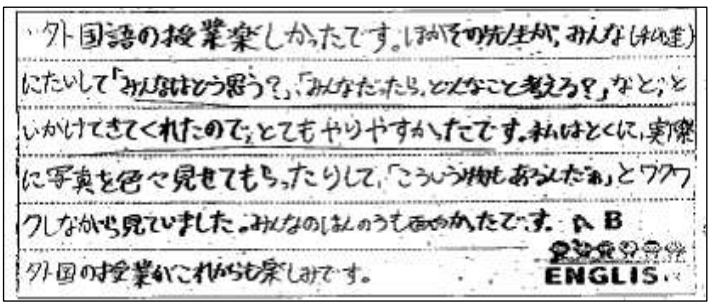

外国語の授業楽しかったです。ほかその先生が，みんな(れんぞく)にたいして「みんなはどう思う？」「みんなだったら，どんなこと考える？」などと，いかけてきてくれたので，とてもやりやすかったです。私はとくに，実際に写真を色々見せてもらったりして，「こういう物もあるんだ」とワクワクしながら見ていました。みんなのしゃべるのうも面白かったです。 A B
外国のお授業がこれからも楽しみです。 ENGLIS

図16　学習計画作成後の児童の感想

- 単元目標に向けて，学びたいことややりたいこと
- 食べ物屋さんの内容
- オリジナル料理の内容（メニュー名，産地，味など）
- オリジナル料理の紹介内容
- 買い物の際に購入する友達が紹介したオリジナル料理の商品

図17　検証授業Ⅱにおいて，児童が選択したり自己決定したりした内容

(ｲ) 児童が「自信を高める」活動【視点１－イ(ｲ)】

a　振り返りシートによる自己評価

学習の結果のみを自己評価するのではなく，学習の過程における自身の態度に関する取組を振り返らせるために，**図18**のように，「頑張ったこと」や「工夫したこと」を，振り返りの視点に加えた。このことにより，自己に肯定的なフィードバックができる場面を増やした。

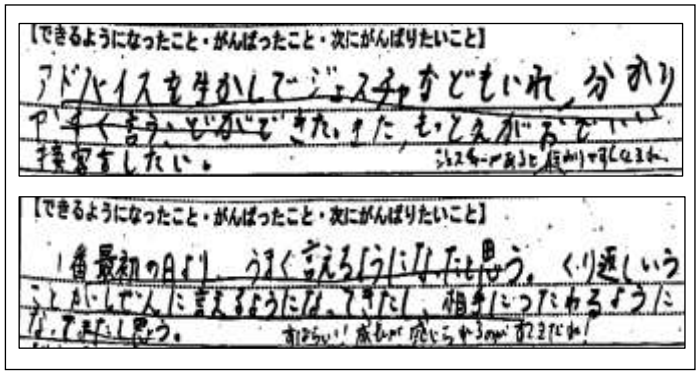

【できるようになったこと・がんばったこと・次にがんばりたいこと】
アドバイスを生かしてジェスチャーなどもいれ，分かりやすく話すことができた。また，もっとえがおでいい接客をしたい。
【できるようになったこと・がんばったこと・次にがんばりたいこと】
1番最初の日より，うまく言えるようになったと思う。くり返しいうことがしだいに言えるようになってきたし，相手につたわるようになってきたと思う。

図18　頑張ったことに関する児童の振り返り

b　単元計画における学習の順序の工夫

検証授業Ⅰにおいて，児童が外国語で紹介したい内容について，発話の機会を十分に設けられず，外国語で伝えることに関する自信がもてないまま本番に臨む児童が多くいたことが課題として見られた。そこで，今単元では，**表７**のように，早い段階で伝えたい内容

を明確にし（第２時），習った外国語をオリジナル料理紹介ですぐに活用できるようにした。児童に，単元のゴールであるオリジナル料理紹介をペアやグループで単元の初期段階から挑戦させることで，発話の機会を増やすとともに（第３・４・５時），オリジナル料理紹介においての課題を把握したり，学習の成果を実感したりできるようにさせ，第６時と第７時の単元のゴールに向かうようにできる学習計画を立てた。

表７　発話の機会を増やすための学習計画の工夫

【学習計画】
1　英語でオリジナル料理を紹介するための計画を立てる。
2　オリジナル料理を考える。
3　ペアでオリジナル料理の味や産地を紹介する。
4　ペアでオリジナル料理の栄養や値段を紹介する。
5　グループでオリジナル料理を紹介する。
6　食べ物屋さんを開いて，友達にオリジナル料理を紹介する。
7　食べ物屋さんを開いて，ALT にオリジナル料理を紹介する。

c　単元における自己評価の機会の設定

検証授業Ⅰと同様に，単元の始めに個人目標を立てさせた。そして，検証授業Ⅱにおいては，図19のように，単元末に，達成度の数値での評価を加えることで，「単元の目標を達成しよう。」という意識を一層高めることができるようにした。

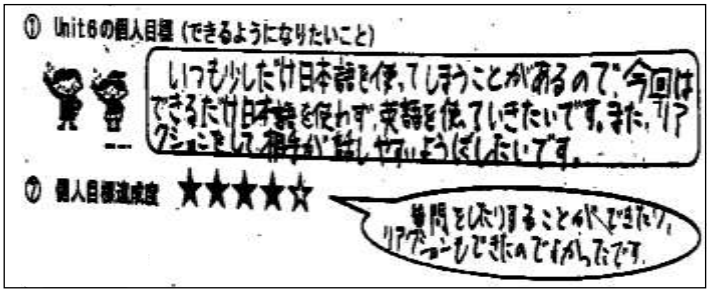


図 19　個人目標の設定と達成度チェック

また，図20のように，毎時間，本時のめあての達成度も記録させ，単元のゴールの姿に近付いていくことを実感できるようにもした。

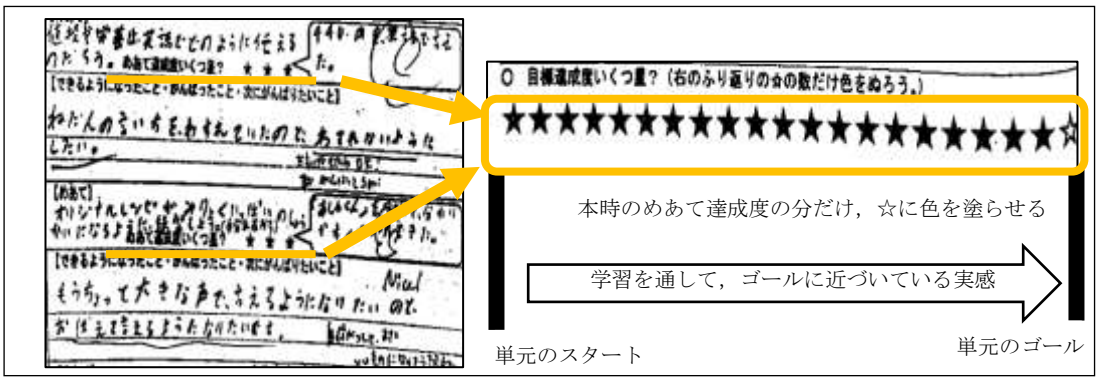


図 20　本時のめあてと単元目標を関連させた達成度チェック

d　友達からの肯定的フィードバックの機会の設定

検証授業Ⅰにおいて，自身の振り返りシートで行っていた友達についての振り返りを，検証授業Ⅱにおいては，友達に直接フィードバックできるようにするために，図 21 のように，友達の「話すこと［やり取り］」においてよかったところをシールに書いて渡すようにさせた。もらった児童は，肯定的フィードバックを受けることで，自信を高めることができるようにした。

〈友達からの肯定的フィードバックの内容〉
- ナイスリアクション
- アイコンタクトグッド
- あい４ナイス！
- 英語がよく言えていた
- ナイススマイル
- 発音ベリーグッド

図 21　肯定的フィードバックを受けることができるようにするためのシールの活用

(ｳ) 児童同士が「協力する」活動【視点１－イ(ｳ)】

Small Talk やグループで行うゲームとともに，**写真１**のように，毎時間本時で学習した内容を活用するオリジナル料理紹介もグループで行う機会を設けた。その際，分からない英語の言い方など互いに教え合うことができるようにしたことで，言語面における不安が払拭できるようにした。

写真１　グループで教え合っている様子

ウ　「あしかくん」の活用【視点２－ア】

(ｱ) Small Talkでの「話すこと[やり取り]」が充実させるための振り返り

検証授業Ⅱにおいては，**図 22** のように，「あしかくん」の回数ではなく，内容を意識させるようにし，どのような内容で「話すこと［やり取り］」が盛り上がるかを把握できるようにし，「話すこと［やり取り］」の充実を図った。

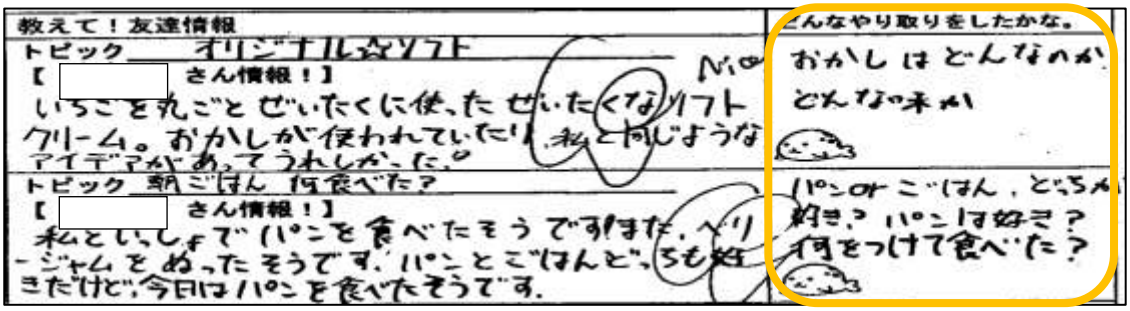


図 22　Small Talk の内容を意識させた振り返り

(ｲ) 「あしかくん」を活用したオリジナル料理の紹介

検証授業Ⅱにおいても，オリジナル料理を紹介する際に，自分の考えや気持ちを伝えるための工夫や，相手に配慮した紹介について考える機会を設け，**図 23** のように，「あしかくん」の活用を図った。

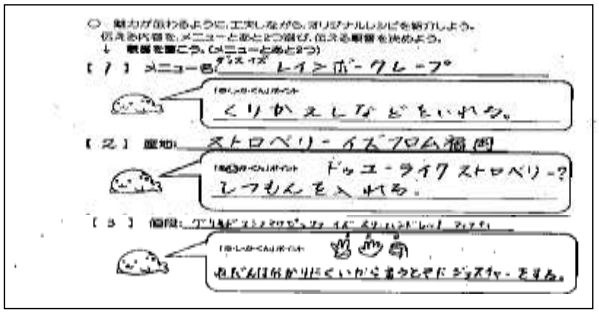


図 23　相手に配慮した紹介になるように「あしかくん」を活用したワークシート

(ｳ) オリジナル料理紹介の動画撮影

授業の終末に，オリジナル料理を紹介する動画の撮影を毎時間行うことで，自身の紹介について，客観的に評価ができるようにした。そして，**図 24** のように，改善点を把握させ，改善につながることができるようにさせた。

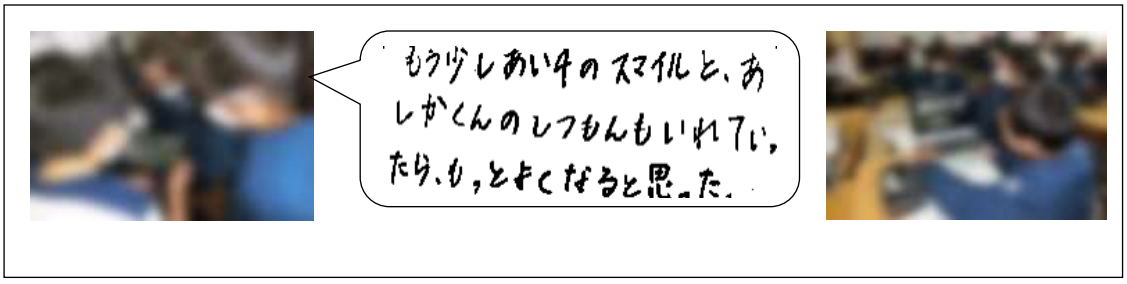


図 24　動画を見て，課題を把握し，改善を図ろうとしている場面

(ｴ) 「話すこと[やり取り]」の充実を目指した学び合いの場の設定

友達とオリジナル料理を紹介し合い，**図 25** のように，アドバイスをもらって改善を図ったり，**図 26** のように，友達のよいところを参考にしたりする機会を設けた。友達との学び合いを通して，自分の考えや気持ちを伝えるための工夫ができるようにした。

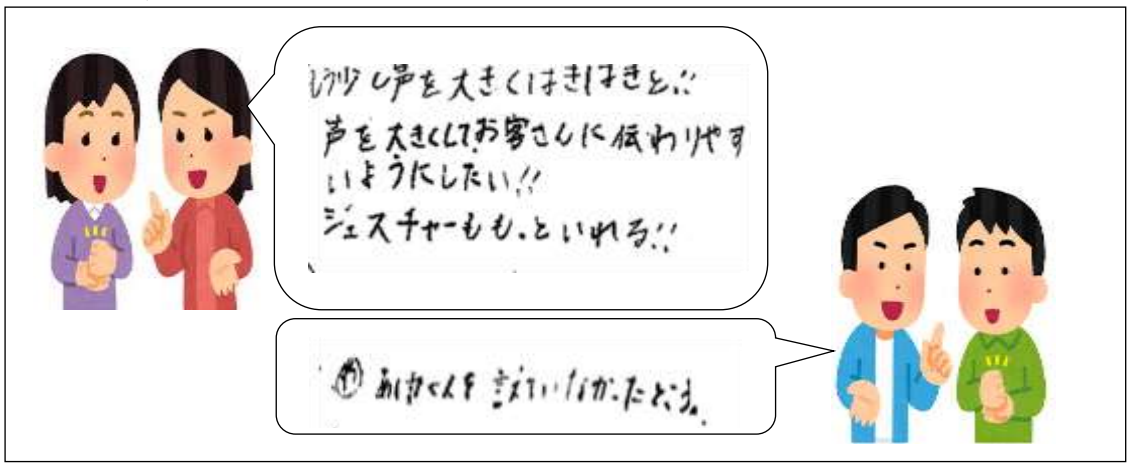


図 25　友達からアドバイスをもらっている場面

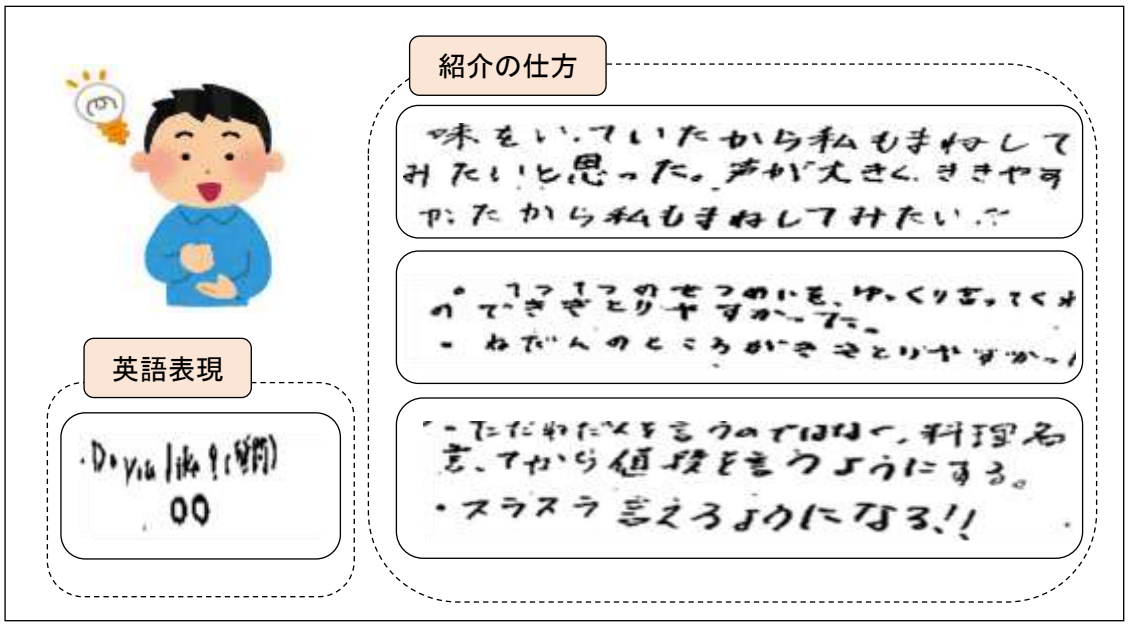


図 26　友達のオリジナル料理紹介を見て生かそうとしている場面

(ｵ) 「話すこと［やり取り］」がより活発になるための工夫

食べ物屋さん役の児童に，オリジナル料理を紹介する内容を三つにして，情報を少なくして伝えさせることで，聞き手であるお客さん役の児童が，買い物のために必要な情報を集める必要性をもたせた。**表８**のように，聞き手も積極的に質問することにより，「話すこと[やり取り]」を活発にし，「話すこと[やり取り]」の充実を図った。

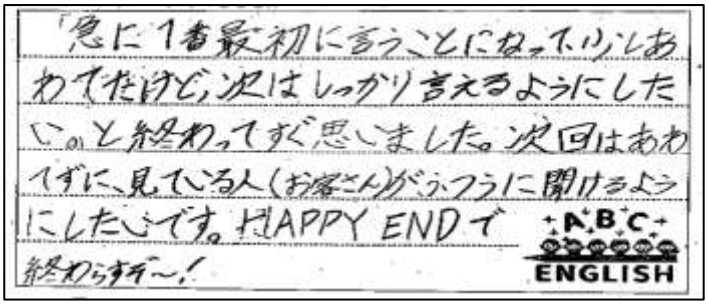
表８　お客さん役の児童（聞き手）が質問していた内容

- How much?　（値段）
- Red group?　（栄養）
- Sweet? Spicy?　（味）
- Big? Small?　（大きさ）
- What’s this?（他の食材）

(カ) 単元のゴールにおける課題を生かす場の設定

図 27 のように，食べ物屋さんになって，オリジナル料理を紹介する機会を２回設け，１回目の課題を次時につなげ，「話すこと［やり取り］」が一層充実できるようにした。

〈1 回目：友達に紹介〉



自分の思いが伝わった。（**自信**）

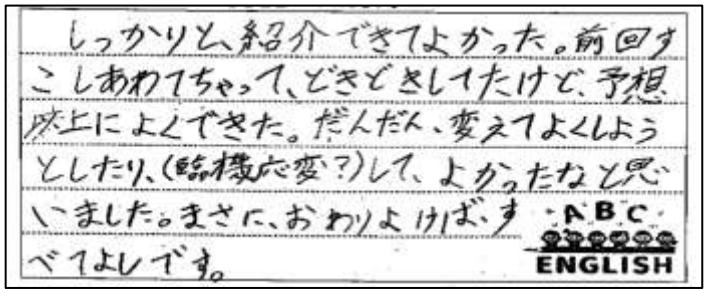
うまくできなかったから，次はこうしよう。（**課題の把握**）

次も頑張ろう。（**次時への意欲**）

友達の表現を生かす（**学び合いを生かす**）

繰り返すことによる表現の定着（**慣れ親しみ**）

〈２回目：友達とＡＬＴに紹介〉



【１回目と２回目の児童の変容】

〈新しく増えた主な言語表現〉

・～ is famous for ….（**グッドモデルを参考にした表現**）

・（紹介終了後）Next!（※次の友達へ）（**前回の友達の表現を参考にした表現**）

〈態度面の変容〉

・大切なところの繰り返し（**自分の思いをより伝えるための工夫**）

・アイコンタクトが増えた（**オリジナル料理紹介への自信**）

図 27　単元のゴールに挑戦する場面

エ　方略的能力を高めるための指導の工夫**【視点２－イ】**

Teacher’s Talk や学習活動の中に，何とかして自分の思いを伝えようとするための方略的能力が高まるような内容を積極的に取り入れた。**図 28** のように，教師が，Teacher’s Talk の中で，外国語でどのように伝えてよいか分からない素振りを見せ，児童に「何て言えばいいかな。」と問い掛け，児童に考えさせた。これを日常的に行うことで，児童の方略的能力が身に付くようにした。

図 28　Teacher’s Talk において，児童に方略的能力について考えさせている場面

(5) 検証授業Ⅱ後の考察

図29と**図30**は，検証授業Ⅰ後と，検証授業Ⅱ後に行った意識調査の結果の比較である。各視点の考察については，次のとおりである。

ア **【視点１】**主体的に学習に取り組むための工夫

図29より，単元を通して，自身の成長を自覚する児童や，新たな課題を見付ける児童が増え，次時の学習へとつなげようとする児童が増えた。また，「オリジナル料理紹介は楽しかったか。」という質問に対して，85％の児童が「とてもあてはまる」，13％の児童が「あてはまる」と答えている。楽しかった理由を見てみると，ＡＬＴや友達との関わりを楽しむ児童が多く，動機付けにおける「協力する」活動の充実に起因するものが多かった。また，「英語がたくさん話せるようになって嬉しい。」と答える児童も多く，外国語への自信を高めることも学習の楽しさへとつながっていた。このようなことから，目的を明確にし，学習を動機付けることは，主体的な学習へとつなげることができると考える。そして，主体的に学習に取り組むことで，外国語で自分の考えや気持ちが伝わる喜びを実感させることができると推測する。

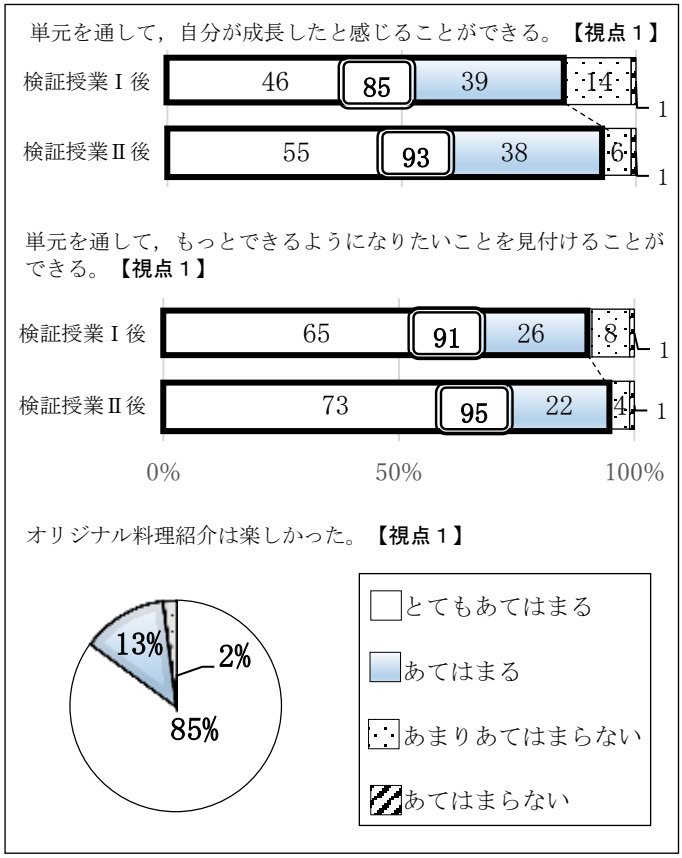


図 29　検証授業Ⅰ後と検証授業Ⅱ後の意識調査【視点１】

イ **【視点２】**互いの考えや気持ちを伝え合い，「話すこと［やり取り］」を楽しむための工夫

図30より，「話すこと［やり取り］」を充実させるための工夫を通して，互いの考えや気持ちを伝え合おうとする児童が増えた。また，自分の考えや気持ちを伝えるために，知っている英語を使ったり，ジェスチャーを用いたりし，方略的能力を活用する児童の姿が見られるようになった。さらに，**図31**のように，聞き手も積極的に質問しながら対話したりする姿も見られるようにもなり，「あしかくん」の活用の充実も図ることができた。「あしかくん」は，94％の児童が「日本語においても大切である。」と答えており，多くの児童は，外国語に限らず，「あしかくん」は，コミュニケーションを充実させるために有効であることを実感している。「あしかくん」や方略的能力を活用して，「話すこと［やり取り］」を充実させることは，互いの考えや気持ちを伝え合う楽しさにつなげることができると考える。

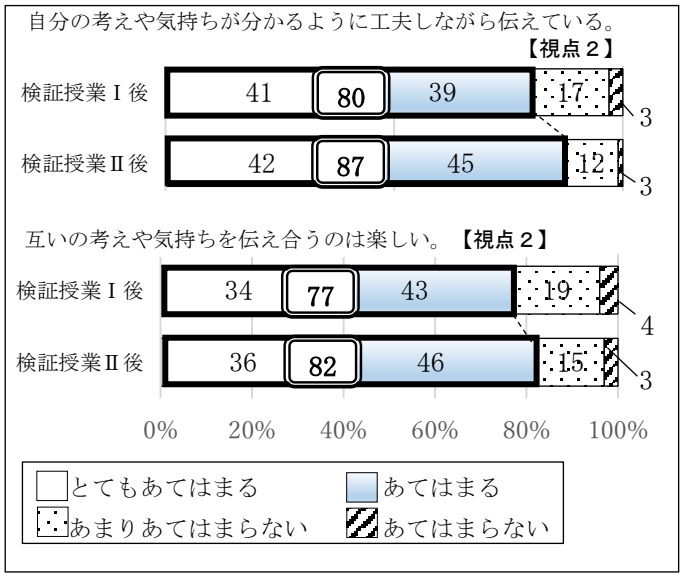


図 30　検証授業Ⅰ後と検証授業Ⅱ後の意識調査【視点２】

図 31　児童の「あしかくん」の活用が図られている様子

Ⅳ　研究のまとめ

1　研究の成果

(1)【視点１】主体的に学習に取り組むための工夫

伝え合う必然性のある場面設定を行うことで，児童は「互いの考えや気持ちを伝え合いたい。」という思いをもち，「話すこと［やり取り］」に必要な内容を自ら考え，目的意識をもって学習に取り組んでいた。また，学習を動機付けるために，「協力する」活動を充実させたことで，外国語学習に苦手意識を感じている児童も，楽しみながら学習に取り組んでいる様子が見られた。そして，単元の途中に，自身の「話すこと［やり取り］」について振り返る機会を積極的に設けたことで，自身で課題を把握し，「自分の考えや気持ちがより伝わりやすくするためにはどうしたらいいか。」を，自ら考えながら学習に取り組んでいた。言語活動が充実するために，主体的に学習に取り組むための工夫を行ったことで，児童は「互いの考えや気持ちを伝え合いたい。」という思いをもち，「話すこと［やり取り］」を行っていた。

(2)【視点２】互いの考えや気持ちを伝え合い，「話すこと［やり取り］」を楽しむための工夫

「あしかくん」を活用し，「話すこと［やり取り］」における大事なポイントを重点化し，指導することで，対話が続き，互いの考えや気持ちを伝え合う「話すこと［やり取り］」を充実させることができた。また，方略的能力を身に付けさせるための工夫を積極的に取り入れたTeacher's Talkやゲームの実施により，児童も「話すこと［やり取り］」において，既得の知識を活用しな

がらどうにかして自分の考えや気持ちを伝えようとする姿が見られた。「話すこと［やり取り］」の楽しさを実感させたことで，児童が互いの考えや気持ちを伝え合うことの楽しさや大切さを実感し，コミュニケーションへの意欲を高めることができたと考える。

2　今後の課題

(1)【視点１】主体的に学習に取り組むための工夫

より一層互いの考えや気持ちを伝え合うことができるようにするために，児童の意思を大切にした学習を充実させ，より主体的に学習に取り組ませていく必要があると考える。そのために，まずは教師が多くの選択肢を与えながら，児童のアイディアを増やしたり，児童の考えを尊重した学習を展開したりし，徐々に児童の自己決定による学習活動が展開できるようにしていきたい。

(2)【視点２】互いの考えや気持ちを伝え合い，「話すこと［やり取り］」を楽しむための工夫

外国語学習におけるコミュニケーション能力の向上を日常生活においても，実感させる必要があると考える。他教科等においても，「あしかくん」の活用を図り，互いの考えや気持ちを伝え合うことができるようにしていきたい。

3　本研究を通して

本研究では，小学校外国語教育において，児童が「話すこと［やり取り］」において，自分の考えや気持ちを伝え合うための手立てについて研究し，やり取りを生んだり続けたりする指導の工夫について研究を進めてきた。意識調査の結果から，児童が主体的に学習に取り組むための指導の工夫と，「話すこと［やり取り］」の充実を図ったことで，互いの考えや気持ちを伝え合う楽しさを実感させることができたと考える。**図 32** は，外国語の学習に関する意識調査の結果である。互いの考えや気持ちを伝え合うための様々な指導の工夫を行った結果，外国語の学習が好きな児童が増えてきている。また，**図 33** の感想より，主体的に学習に取り組ませたり，「話すこと［やり取り］」の楽しさを実感させたりすることは，互いの考えや気持ちを伝え合うことの大切さや嬉しさにつながることも分かった。児童の考えや気持ちを伝え合うための指導を充実させることで，コミュニケーションや外国語学習への肯定的な意識を高めることができると考える。

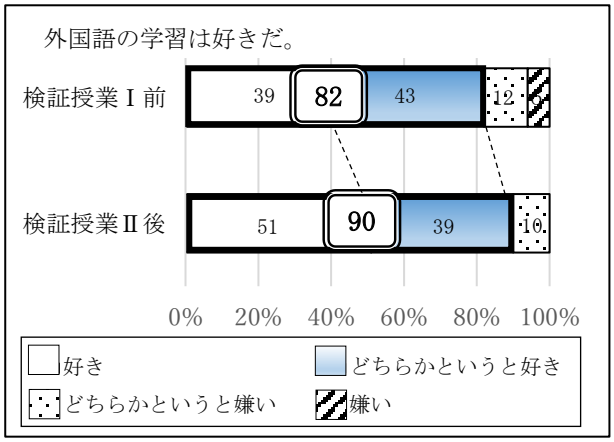


図 32　外国語の学習に関する意識調査

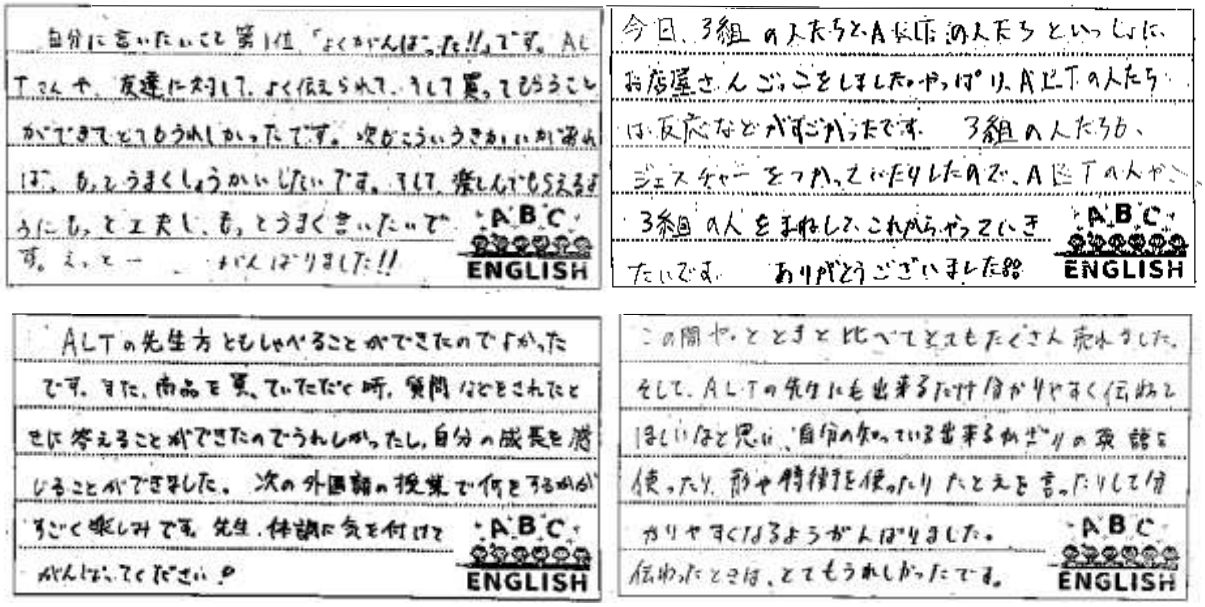


図 33　検証授業後の児童の感想

引用文献・ＵＲＬ，参考文献

〈引用文献・ＵＲＬ〉

1)　文部科学省「言語能力について（整理メモ）」2016 年
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/056/siryo/attach/1366049.htm
（2021 年２月 26 日閲覧）

2)　伊東武彦「『やり取り』が求める力とその指導」2019 年
http://id.nii.ac.jp/1114/00006733　（2021 年３月１日閲覧）

3)　文部科学省『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』2017年
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm（2021年３月５日閲覧）

4)　廣森友人　著　　『英語学習のメカニズムー第二言語習得にもとづく効果的な勉強法』
2015年 大修館書店

5)　エドワード・L・デシ，リチャード・フラスト　著　桜井茂男監訳
『人を伸ばす力　内発と自律のすすめ』　1999年　新曜社

6)　アレン玉井光江　著
『小学校英語の教育法ー理論と実践』　2010年　大修館書店

7)　ゾルタン・ドルニェイ　著　米山朝二／関昭典訳
『動機づけを高める英語指導ストラテジー35』　2005年　大修館書店

〈参考文献〉

○　文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動・外国語編』　2018年　開隆堂

○　和泉伸一　著　『フォーカス・オン・フォームとCLILの英語授業』　2016年　株式会社アルク

○　卯城　祐司　編著　『MINERVA　はじめて学ぶ教科教育⑤　初等外国語教育』　2018年　ミネルヴァ書房

○　笹島茂　山野有紀　編著
『学びをつなぐ小学校外国語教育のCLIL実践　「知りたい」「伝え合いたい」「考えたい」を育てる』　2019年　三修社

○　サンドラ・サヴィニョン　著
『コミュニケーション能力ー理論と実践ー【原書第２版】』　2009年　法政大学出版局

○　三宮真智子　著　『メタ認知で〈学ぶ力〉を高める　認知心理学が解き明かす効果的学習法』　2019年　北大路書房

○　土屋澄男　秋山朝康　大城賢　千葉克裕　望月正道　著
『最新英語科教育法入門』　2019年　研究社

○　投野由紀夫　編　『CAN - DOリスト作成・活用　英語到達度指標　CEFR - Jガイドブック』　2013年　大修館書店

○　山口美穂　著　『小学校英語サポートBOOKS　身近な話題で楽しく話せる！Small Talk 月別メニュー88』　2019年　明治図書出版株式会社

長期研修者　［外薗　さおり］
担 当 所 員　［眞 正　　基 道］

【研究の概要】

本研究は，やり取りを生んだり，続けたりする指導の工夫を通して，外国語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う児童の育成を目指した研究である。

外国語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う児童を育成するためには，児童が主体的に学習に取り組むことができるようにすることと，児童に互いの考えや気持ちを伝え合うやり取りの楽しさを実感させることが大切である。

本研究を通して，互いの考えや気持ちを伝え合うことの大切さを実感し，自分の考えや気持ちを知ってもらうために，既得の知識を活用して，工夫しながら伝えるなど主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の姿が見られた。

【担当所員の所見】

本年度から小学校における外国語活動・外国語科が全面実施された。それより前から多くの学校が全面実施に備え，外国語の授業の先行実施を行っていた。しかし，それらの学校での児童の様子を見てみると，「話すこと〔やり取り〕」の場面において，一問一答のような活動が多く，小学校外国語の目標である「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による言語活動を通して，コミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を育成する。」の達成には課題が多い現状があった。それを一つでも解決したいという気持ちから本研究が始まった。

コミュニケーション能力をCanale&Swainの先行研究を参考に文法能力，談話能力，社会言語能力，方略的能力に分類し，それぞれの能力をどのように児童に授業の中で身に付けさせるかを考えた。また，コミュニケーション能力の育成だけでなく，児童の内発的動機付けに着目し，Edward L.DeciやDaniel H.Pincの先行研究を基に児童が行う活動を必然性のある言語活動にするための研究も行った。

本研究が常にアップデートされ，この内容がこれからの児童にとって個別最適なものになるよう期待したい。